

シェークスピアの時代と海運

2018年12月3日

関根 博

1. シェークスピアとその時代背景

【中世(11世紀から16世紀頃)】

- ・イタリア(ヴェニス共和国等)による、地中海、アジア東方貿易の独占

【近世(15世紀から17世紀頃)】

- ・大航海時代 : スペイン、ポルトガルによる西回り航海
- ・1492年 : コロンブスの新大陸発見
- ・1522年 : マゼランの世界一周

【シェークスピア(英国:1564年～1616年)】

- ・1592年から1612年まで作家活動
(背景)
- ・1580年: フランシス・ドレークの世界周航
マゼランについて世界で2番目、
政府免許を持った海賊、イギリスに莫大な富をもたらす
- ・1600年: イギリス東インド会社設立



イタリア東方貿易の末期 + 大航海時代の真っ最中 + 英国海運の黎明期

2. シェークスピアと海

ウィリアム・シェークスピア(1564年～1616年)

- ・出身 : ストラトフォード・アポン・エイヴオン
- ・作品 : 1592年から1612年まで20年間作家活動
(参考: 1492年コロンブスの新大陸発見)

1) シェークスピア研究者-A

シェークスピアの海は、イギリスが海の覇権を手にする以前の海、少年たちが心躍らせた海洋冒険小説以前の海であり、古代ギリシアのアニミズムが息づく霊的な海、近代科学によって征服される以前の海である。

2) シェークスピア研究者-B

『夏の夜の夢』

妖精の女王タイターニアが語るインドの風景である。シェークスピアは「海神ネプチューンの黄色の砂浜」と書きながら、インド西部のムンバイ、ゴア、カリカットあたりの胡椒の集散地を思い浮かべるか、原産地である南西部マラバール海岸付近の風の匂いを想像していたのだろう。

3. ヴェニスと海運

1) 1280年～1330年

イタリア海運の造船技術と航海術の発展により、大型の船が1年をとおして航海ができ、多くの商品を安全に、短い往復時間で運べるようになった。

⇒最も基本的な改良は、操舵装置(滑車等による機械式)

⇒コンパスの使用(1270年)

⇒船員(特にガレー船)プロレタリアート(賃金労働者)の出現
地中海だけではなく、黒海やジブラタル海峡をこえて北海まで活動した。
イタリアの資本力は他国を凌駕

2) 1330年 ガレー商船、商船団制度(ムーダ)の確立(1530年まで続く)

- ・ヴェニスの国営造船所で造ったガレー船を市民に貸しつけ、国家による厳重な運航管理のもとに香料の輸送を行う船団(ムーダ)制度
- ・隊列を組んで航海、海賊や海難についても、帆船より安全(防御も可能)
- ・主な航路:ギリシア航路、キプロス航路、アレクサンドリア航路、フランドル航路

【ガレー商船の乗組員】

- ・ヴェニスのガレー船乗組員は、全て自由民(庶民階級、給料が良い)
- ・乗組員は、自分の商品を腰掛けの下に持ち込んで寄港地で売れることを認められていた
- ・合計約200人(船長、航海長、水先人、漕ぎ手150人、甲板員12人、水夫20人)

4. 戯曲「ヴェニスの商人」の背景にある海運を読み解く

1) ストーリー

- ①人肉裁判 : 高利貸しが借金の形に主人公の肉1ポンドを求め、その裁判全体のメインテーマ/ユダヤ人の復習と、裁判での慈悲
- ②箱えらび : 婿選びに、金、銀、鉛の箱のどれかを選び決める
- ③駆け落ち : ジェシカの駆け落ち、キリスト教徒になる
- ④指輪の紛失 : 婚約指輪を、恩人の裁判官に贈り、そのドタバタ劇

2) 戯曲「ヴェニス商人」と海運

<1 幕-1 場>

「今ごろはその海の上を、きみの持ち船がいずれも大きく帆をふくらませて・・・」(新潮)

There where your argosies with portly sail

「布の翼を広げて飛んでいくんだからね」(角川)

As they fly by them with woven wings.



使用船舶は帆船

(参考) ヴェニスの海運力(1423 年)

小型帆船 3,000 隻(乗組員 17,000 人)

大型帆船 300 隻(乗組員 8,000 人)

大型ガレー船 45 隻(乗組員 11,000 人)

うち ガレー商船 25 隻、軍用ガレー船 15 隻、旅客用 5 隻

<1 幕-1 場>

「積みこんだ香料は海の上に撒きちらされ、・・・」(新潮)

Would scatter all her spices on the stream,



積荷は香料

<3 幕-1 場>

・・・荷物を満載したまま海峡で難破したという。場所は、なんでもグドウィンの浅瀬とか言ったよ。——非常に危険な所で、助かりようがないとか、巨船の残骸がたくさん眠っているのだそうだ。(新潮)

(角川脚注) イングランド東南のケント州にあるグッドウィン砂洲は、船の難所として知られていた

A ship of rich lading wreck on the Narrow Seas; the Goodwins I think they call the place

(Oxford 脚注) the Goodwins: The Goodwin Sands in the middle of the channel are major hazard for shipping



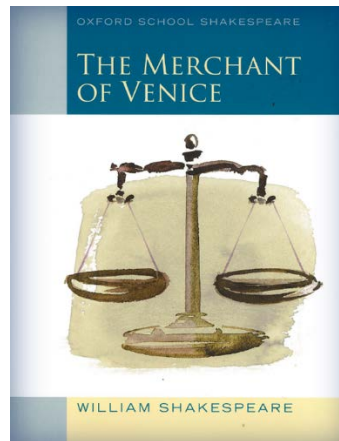
グッドウィンは、昔も今も海の難所である(シェークスピアも知っていた)

(参考) The Goodwin Sands

- 位置 : 英国ケント州沖合い 10Km、ドーバー海峡西側
- 大きさ : 南北約 10 マイル、東西約4マイルに広がる砂洲
- 水深 : 海面上1m、水深 0mから 20m
- 遭難 : 今まで 2000 隻以上の船舶が座礁したと言われている



South Goodwin Light Ship(模型)



The Merchant of Venice (Oxford University Press)

3) 第 5 のストーリー

- ・ストーリーのベースは、壮大な地中海貿易
- ・船主(貿易商)と船乗り(貴族=船長候補)



貿易業
(自己運送、商人輸送)



海運へ

(オランダ東インド会社等、他人運送/Public Carrier)

5. 海運の歴史を大胆に鳥瞰

世紀	国	登場人物	概要
11-15	イタリア	ベニスの商人	地中海、アジア貿易を独占
15-16	スペイン・ポルトガル	コロンブス、マゼラン	西周り航路の開拓、大航海時代
17-18	オランダ	東インド会社	インド以東を独占
17-19	イギリス	ネルソン	制海権の確保、海運業の生成
19-20	アメリカ	ブラック・ボール汽船	定期船、コンテナリゼーション
21-	????????	21世紀の主役は誰か??	

以上